

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立南波多郷学館
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の充実については、目標時間だけでなく、内容(質)の伴った家庭学習となるように、引き続き取組を行っていく必要がある。</li> <li>・「ふれあい道徳」や「心の広場」等、各ステージ内で連携協働しながら取り組むことで、自他の生命尊重や他者への思いやり等、児童生徒が豊かな心を身につけることにつなげる。いじめ防止に関しての取組については、全教職員で組織的対応をしてきたが、今後も児童生徒や家庭への周知・啓発を引き続き行っていく。</li> <li>・働き方改革の推進においては、義務教育学校の特色を生かした小中の乗り入れ授業の実施や、部活動指導の小中連携、ステージリーダーを中心としたステージ経営の充実等の業務改善を図ったことが、時間外在在等時間の減少につながった。引き続き業務環境を整え、年次休暇を取得しやすい職場環境を整えていく。</li> <li>・本年度は、南波多郷学館9年プランの【発展期】(7~9年)の9年目である。到達目標6:学区外から郷学館への就学希望がある・・・発展プランの最終年に向けて、さらなる充実を図っていきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	「ふるさとを愛し、夢に向かってたくましく挑戦する児童生徒の育成」～ふるさとに学ぶ ふるさを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「喜んで登校し、満足して下校する学校 南波多郷学館」を目指して</li> <li>2. 自律的に判断し、活動するステージ経営を目指して</li> <li>3. 教職員の職能開発と協働意識の向上</li> <li>4. コミュニティ・スクールとしての活動の進化</li> <li>5. 学校における働き方改革</li> </ol>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○主体性育成のための授業の工夫を通じた、児童生徒の学力向上	○授業に対して、主体的に自ら学ぼうとしていると自己評価する児童生徒が70%以上	・校内研究において、児童生徒の主体性育成のための授業導入の工夫に取り組む。 ・学習状況調査等の学力検査の分析を行い、児童生徒の課題を明らかにし、課題に合わせた取組を検討し、実施する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートにおいて、「命や思いやりの大切さについてしっかりと考えることができている」と回答する児童生徒が90%以上	・教育活動の中で、ほめる(認める)機会を大切に、児童生徒の自己肯定感を高める。 ・各学年の発達段階に応じた道徳科の授業、人権・同和教育「心のひろば」(教師による人権講話)を実施し、児童生徒の人権意識を高める。				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等のための取り組み、事業対応等)について組織的対応ができていると回答した教員が90%以上	・本校のいじめ防止対策基本方針をもとに、いじめの定義、認知及び対応について共通理解を図り、全職員で対応する。 ・定期的に心のアンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見を行う。				
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒が90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒が85%以上	・様々な教育活動で意図的に出番をつくり、役割を計画的に与え、活動に対して的確に承認していく。 ・掲示板等を活用して、児童生徒の将来の夢や目標を意識させていく。				
	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童(前期課程)70%以上、生徒(後期課程)80%以上	・各クラスで使える外遊び用の道具を補充し、定期的な点検する。 ・体育の授業や部活動マナーにおいて児童生徒が自主的な準備や計画を行えるように計画する。 ・スポーツチャレンジを職員に周知し、積極的にスポーツに取り組める環境づくりを行う。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○感染症予防教育の充実	○「手洗いうがいの習慣がついている」と回答する児童生徒の割合が90%以上	・1学期末、2学期末にアンケートを実施し、週間づいている児童生徒の割合を比較する。 ・健康委員会の活動で、手の洗い方についての啓発活動を行う。				
	●業務効率化の推進と時間外在在等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在在等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日を定時退勤日とし、定時退勤を促す。 ・部活動を複数顧問制とし、部活動指導の負担軽減とする。 ・業務内容を幅広い視点で見直すことで、分掌内で効率的かつ協働的に業務が進められるようにする。				
●特別支援教育の充実	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事の精選と業務の縮減に取り組む、効率化が進んだという教員が90%以上	・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してステージとして対応できるようにする。				
	○一人一人のニーズに応じた個別指導の充実	○特別支援学級および通常学級において、支援を要する児童生徒への指導・支援を十分行うことができたと感じる教職員が80%以上	・校内においてケース会議や児童生徒の見取りを行い支援する。 ・関係機関を招聘しての職員研修を充実させ、「誰でもできる特別支援教育」を目指す。				

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○自律的に判断し、活動するステージ経営	○ステージリーダーを中心とした各ステージ経営の充実	○教職員のステージ経営の充実及び満足度90%以上	・ステージ経営方針に沿って、OJTを核とした共通理解と実践を図る。 ・ステージに関わる全教職員でステージを経営していく意識を醸成するために、ステージ部会の充実を図る。
○コミュニティ・スクールとしての活動の深化	○コミュニティ・スクールとしての活動の周知や啓発	○保護者や地域におけるコミュニティ・スクールとしての活動内容の認知度90%以上	・学校だよりやコミュニティスクールだより、学校ホームページ等を通して、積極的に情報を発信する。 ・学校運営協議会を通じて学校の取組を説明し、各委員との意見交換することで、目指す子ども像を共有する。				

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
----------------	---